

# 第56回

# 水工学に関する夏期研修会

主催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会，海岸工学委員会）

後援：公益社団法人 土木学会 四国支部

期日：2021年8月30日(月)～31日(火)の2日間  
(A・Bコース並行開催)

場所：オンライン



本研修会は土木学会のCPD  
(継続教育)プログラムと  
して認定されています。

Aコース(河川・水文) [行事コード] 2321021

Bコース(海岸・港湾) [行事コード] 2321022

《総合テーマ》：「激甚化する豪雨災害に備える河川技術」

《総合テーマ》：「海岸災害対策におけるこれからの論点と適応技術」

## ■ 8月30日(月)

Aコース(河川・水文)		Bコース(海岸・港湾)	
9:00-10:30	那須清吾(高知工科大学・教授, 副学長): 気候変動の地域影響予測と適応政策の在り方		
10:45-12:15	森脇亮(愛媛大学・教授): 平成30年7月豪雨後の愛媛県における防災・復興・流域治水の取り組みについて	10:45-12:15	佐藤慎司(高知工科大学・教授): UAVを用いた海岸情報マッピング技術
13:15-14:45	田中茂信(京都大学・教授): 治水計画の変遷と降水量極値の変化	13:15-14:45	福谷陽(関東学院大学・准教授): 確率論的津波ハザード評価とその利活用
15:00-16:30	清水義彦(群馬大学・教授): 激甚化する洪水氾濫災害から学ぶ水工学の課題	15:00-16:30	相澤幹男(四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所・所長): 高知港海岸における三重防護による地震・津波対策について

## ■ 8月31日(火)

Aコース(河川・水文)		Bコース(海岸・港湾)	
9:00-10:30	磯部雅彦(高知工科大学・教授, 学長): 高潮の基礎と防災の枠組み		
10:45-12:15	米山望(京都大学・准教授): 2DH-3D解析を用いた都市域における津波複合災害予測手法とその適用例	10:45-12:15	河野達仁(東北大学・教授): 海岸河川防災計画における経済学的手法の適用: 土木技術者Dupuitの分析を現在に活かす
13:15-14:45	中村圭吾(土木研究所・上席研究員): 河川における新しい技術の導入～革新的河川技術プロジェクトから大河川の多自然川づくりまで～	13:15-14:45	富田孝史(名古屋大学・教授): 津波、高潮・高波に対する防災・減災のこれまでとこれから
15:00-16:30	一言正之(日本工営株式会社中央研究所・課長): 河川・水防災におけるAI技術の活用	15:00-16:30	馬場俊孝(徳島大学・教授): 分散性を考慮した津波伝播計算

定員：Aコース250名，Bコース250名

受講料：1コースにつき，一般16,000円，学生・院生10,000円（いずれも講義集代を含む）

申込方法：土木学会ホームページ：

<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>

申込締切日：2021年8月9日(月)

備考：講義の変更等の最新情報に関しては，下記ホームページでご確認ください

水工学委員会ホームページ

<http://committees.jsce.or.jp/hydraulic/>

海岸工学委員会ホームページ

<http://www.coastal.jp/ja/>

\*本会の実施は高知大会の実行組織が担当しております